

松原寺通信

第五号 令和三年十二月一日
発刊 松原寺 彦根市松原二丁目
発行 責任者 佐々木 亮 釋亮真

令和三年報恩講

報恩講とは、親鸞聖人を偲び、

その恩に報いるようお念仏をよ
りいっそう味あわせて頂く浄土
真宗の門信徒にとって一年で一
番大切な仏事です。ご本山でお勤
めされる「御正忌報恩講」、お寺
でお勤めする「報恩講」、そして
各お家でお勤めする「お取り越
し」をそれぞれ大切にしていきた
いものです。

さて、そんな松原寺の報恩講は
昨年が続いて、川村妙慶さんが法
話に来てくださいました。普段ラ
ジオで声だけ聴いておられるか
たも多いと思います。法話を聞く
方法はラジオの他に、テレビやY
OUTUBEなど最近はお寺に

行かなくても法話が聞ける環
境が整ってききましたが、やはり
実際に直接会って面と向かっ
てお話しを聞く。これが大事だ
と思います。コロナでオンライ
ン授業やオンライン会議など
パソコンの画面で済ませる流
れが加速したようですが、それ
に逆行する動きもでてきたよ
うです。妙慶さんのお声もラジ
オのスピーカーを通した雑音
交じりの機械的な声よりも、実
際の生の声の方が何倍も心に
届いてくると思います。
来年の報恩講も川村妙慶さ
んの法話が決定しております。
3年連続の3回目。これで一旦
ラストの予定です。是非皆さ
ま、お参り、そしてお聴聞よろ
しくお願い致します。



令和3年報恩講

住職厄年？

かなしきかなや道俗の良時
吉日きちにちえらばしめ天神地祇てんじんじぎをあが
めつつぼくせんさいし卜占祭祀ぼくせんさいしつとめとす 「正
像末和讃」 親鸞聖人

12月7日で満41歳になり
ます。今年は何年という厄年にあ
たる年だったようです。厄年とい
うのは、平安時代にはすでに存在
した根拠なし、起源不明の迷信で
す。一般人でも宇宙旅行が可能に
なるうとする21世紀の世の中

において、この迷信を信ずる風習
がなかなか直らないのは不思議
ですね。そこで、ホンモノとニセ
モノを見分ける方法を一つお伝
えしようと思います。それは簡単
で、「場所がかわっても通用する
かどうか」です。厄年が外国で通
用しますか？ちなみに浄土真宗
のみ教えは世界中にひろまって
おり、特にカナダ、アメリカ、ブ
ラジルには立派な寺院を拠点に
沢山の御同行（仲間）がおられま
す。場所や時間が変わっても揺ら
ぐ事のないお念仏のみ教えを心
の真ん中に持たたいものです。

お知らせ

・朝の会 毎月第2土曜日6時半
※会員制ではありませんのでご
自由にお参り下さい。

・春季永代経法要

日時…3月12日 13時半
法話…松山智慧ちえまろ 師

鈴鹿市 随願寺副住職

獣医師